さとやま

第6号

里山基本計画の策定に向けた
里山活動を考えるワークショップ　ニュース

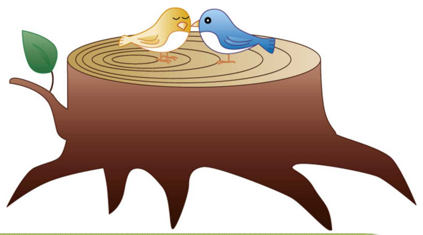
明けましておめでとうございます！昨年９月からスタートした「里山活動を考えるワークショップ」ですが、１月末の最終回を残すのみとなりました。

さて、第４回ワークショップを年末 12 月 20 日（木曜日）に開催しました。

今回は、前回話し合った「里山散策路づくり」、「里山の暮らしを伝える・体験の場づくり」、「里山プレーパークづくり」、「里山風景づくり」の活動を展開するために必要な「場所」、「金」、「人」、「ノウハウ」を確保するための長久手版の仕組みについて考えていただきました。

第4回ワークショップ「里山保全活動に向けた仕組みについて考えよう！」

■日時：平成 30 年 12 月 20 日（木曜日）午後７時から９時まで
■場所：平成こども塾　丸太の家
■参加者：30 名
■プログラム：



(1)開会
・今回のプログラムの説明

(2)里山保全活動の紹介
・「合同会社つむぎて」の加藤康次さんより、「自然循環から暮らしを学ぶ」をテーマに杁ノ洞地区などで実践している活動などについて紹介いただきました。

(3)前回の振り返り
・前回のワークショップで各グループから提案された里山活動拠点施設のアイデアを統合した最低限必要な施設の機能などを説明しました。

(4)里山保全活動に向けた仕組みの検討(グループワーク)
・「里山散策路づくり」、「里山の暮らしを伝える・体験の場づくり」、「里山プレーパークづくり」、「里山風景づくり」４つの活動プロジェクトごとのグループに分かれ、各プロジェクトの活動を展開していく上で必要な「場所」、「金（活動資金）」、「人（市民・企業ボランティア）」「ノウハウ（管理・運営・経営力）」を確保するための長久手版の仕組みを考えました。

(5)発表
・グループごとに話し合いの内容を発表していただきました。

(6)まとめ
・全体でのまとめを行い、次回以降のご案内をしました。

里山保全活動の紹介

４年前から４人のメンバーで自然循環を活かした栽培などに取り組む「合同会社つむぎて」の加藤康次さんから、「自然循環から暮らしを学ぶ」をテーマに、昔と今の暮らしの変化などを説明していただきながら、杁ノ洞地区や三重県名張市での耕作放棄地を生かした活動、雑草の活用など、耕作放棄地を地域資源としてビジネス的に活用する事例なども含めて紹介していただきました。

各グループの話し合いの成果

①里山散策路づくり

里山散策路づくりのグループでは、「場所の確保」には、市が地主と調整することや、条例などを作って土地を買いやすくする仕組みを作ることが提案されました。また、「お金の確保」では市内の企業から寄付金を募ったり、有料の自然講座を開催して稼ぐことなどが提案されました。さらに、「人の確保」では大学生を呼び込んだり、企業の社会貢献活動とマッチングさせていくなどのアイデアが提案されました。また、「ノウハウの確保」では、コーディネーターやノウハウを持つ人の掘り起し、大学との連携などが提案されました。

【里山散策路づくりグループのアイデア（抜粋）】

場所（緑地の担保）	〇市が地主と調整する。 〇土地は有償貸与でないと難しい。 〇条例を作り、土地を買いやすくする。
金（活動資金の調達）	〇企業との連携で企業から寄付金を募る。⇒樹名の銘板等に企業名を入れていく。 〇自然講座を開催して稼ぐ（１回 500 円は高いので、100～200 円くらいか)。 〇竹を売る。
人（市民･企業ボランティア）	〇大学生を呼び込み、一緒に活動し、木を切る爽快感を味わってもらう。(将来の里山マイスターに育成する。) 〇企業の社会貢献を募る。 〇企業とジョイントしやすいプログラムを考える。 〇企業もボランティアを義務付けているため、上手くマッチングする。
ノウハウ（管理･運営･経営力）	〇各テーマの活動でコーディネーターが必要。 〇ノウハウを持つ人材を掘り起こす。 〇大学との連携を考える。(里山に関心のある教授で、仕事でなく趣味で関われる人。学生も一緒に関わってもらえるようにする。)

②里山暮らしを伝える･体験の場づくり

里山暮らしを伝える・体験の場づくりのグループでは、「場所の確保」には地元の人と活動する人の想いを同じにしていくことや最初の話の持って行き方が大事などの意見が出されました。また、「お金の確保」では野菜や竹炭を売ったり、体験プログラムで収入を得たり、スポンサーに資金提供してもらうことなどが提案されました。さらに、「人の確保」では地元の人を巻き込む方法などが提案されました。また、「ノウハウの確保」では、市役所と連携しながら人と体制を構築していくことなどが提案されました。

【里山暮らしを伝える・体験の場づくりグループのアイデア（抜粋）】

場所 （緑地の担保）	【信頼関係が大切】 〇地元の人の想いと活動する人の想いをイコールにする。 〇理解を得るには話の持って行き方が最初は大事。 〇気持ちよく貸せるようにする。 〇誰にものを言えば良いかをはっきりさせる。
金 （活動資金の調達）	〇食に対する熱い想いをお金にする。 〇竹炭を作って売る。 〇スポンサーに資金提供をしていただく（地元貢献。大義がない） 〇体験型プログラムで収入を得る。 〇米や野菜を作って販売する。
人 （市民･企業ボランティア）	【土地を貸すと気になるので、地元の者、地主は必ず来る】 〇耕作をやめた方は貸すと気になる。人間の心理（地元の人の想い） 〇農業経験者で「みんなでやろう」と言ったらやってくれる方は地元の知り合いで５人は確保できそう。
ノウハウ （管理･運営･経営力）	〇言いだしっぺは市役所で、市役所が関わりながらリーダーの音頭とりをする。 〇まずは人と体制をシルバー人材なども活用しながら。 〇年間を通じたフィールドワークを行い、自然で生き抜く力を育む。

③里山プレーパークづくり

里山プレーパークづくりのグループでは、「場所の確保」には基本は市役所が地主と交渉することなどの意見が出されました。また、「お金の確保」ではふるさと納税の活用、利用者から料金をもらうこと、企業に営業することなどが提案されました。さらに、「人の確保」では活動してくれる市民を募集しつつ、どのように大学や高校と連携していくかなどのアイデアが提案されました。また、「ノウハウの確保」では、将来的には法人化を目指し、親が見守りやプレーリーダーの運営に関わってもらうようにしていくことなどが提案されました。

【里山プレーパークづくりグループのアイデア（抜粋）】

場所 （緑地の担保）	〇基本は市役所が地主と交渉する。
金 （活動資金の調達）	〇ふるさと納税の活用。 〇利用料の負担は必要。 〇不動産屋と提携し、営業に使ってもらう。
人 （市民･企業ボランティア）	〇欲しい人材の姿や能力を具体的に示して募集する。 〇単なる人材確保ではなく、能力、技術を提供してもらう。 〇長久手に住んでいる大学生と地域をつなぐ（学生だけだと短期になる） 〇大学生のためのボランティア単位を作る。 〇企画段階から大学生に参加してもらう。 〇高校のボランティア部などの部活動や大学サークルとつながる。 〇レポートや卒論のネタにするため、先生とタイアップする。
ノウハウ （管理･運営･経営力）	〇将来的には法人化すべき。 〇適材適所の人材確保（管理、経営、教える、見守る）。 〇市が活動を積極的に広報する。（やりがいのある活動へ） 〇親が見守りやプレーリーダーの運営に関わる。

④里山風景づくり

里山風景づくりのグループでは、「場所の確保」には荒れた状態を地権者に知ってもらい、理解のある人から広げていくことなどのアイデアが出されました。また、「お金の確保」では収穫できるものを販売したり、里山オーナー制度などを実施して稼ぐことなどが提案されました。さらに、「人の確保」では企業の CSR 活動や大学との連携、農業校の卒業生などの活躍できる場など、人が集まる仕掛けを作るためのアイデアが提案されました。また、「ノウハウの確保」では、NPO 団体を設立し、全体コーディネーターを確保しつつ、退職した市職員も採用していくことなどが提案されました。

【里山風景づくりグループのアイデア（抜粋）】

場所 （緑地の担保）	〇場所の確保は市が主体。（地権者のメリット⇒税優遇） 〇荒れた状態を地権者に知ってもらう。 〇理解のある人の土地から広げていく。 〇モデルとなるような活動で地元の方の理解を深める。 〇将来的には NPO がフィールドも準備する。その前段階で「〇〇の会」を作る。
金 （活動資金の調達）	〇里山は本来お金を作るところ（お小遣い程度）。 〇収穫したものをあぐりん村に出荷する。 〇里山オーナー制度、特産物の生産、鳥、虫、花の撮影会を行う。 〇市の助成金は２年程度。団体が稼ぐ仕組みが必要。
人 （市民･企業ボランティア）	〇企業の CSR 活動 〇県大や愛知医大との連携 〇皆が集まるしかけを作る 〇農楽校の卒業者が活躍できる場
ノウハウ （管理･運営･経営力）	〇NPO 団体の設立 〇市職員の退職者 〇核となる人は市の職員では×。全体のコーディネーターが必要。

次回のご案内

◆1 月 24 日（木曜日）午後 7 時から平成こども塾丸太の家にて、第５回ワークショップを開催します。最終回となるため、これまでの話し合ったことを振り返りながら、今後の活動、施設の管理・運営などについて話し合いたいと思います。

【お問合わせ先】
長久手市みどりの推進課
電話：0561-56-0552